

停電時の危機対策学ぶ

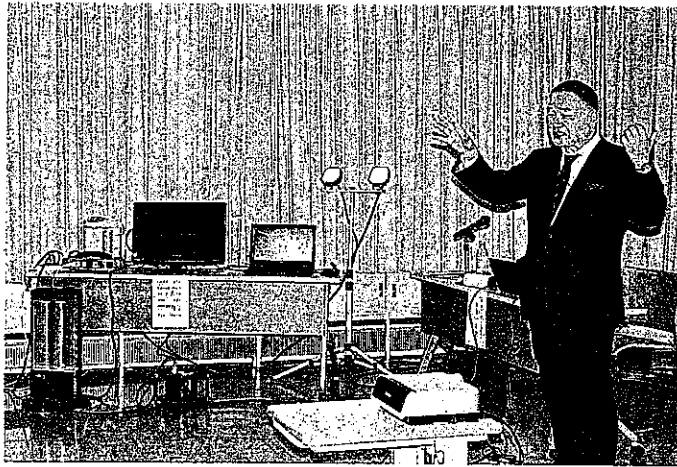
根室振興局 防災担当者らにセミナー

【中標津】昨年9月の胆振東部地震による道内全域停電（ブラックアウト）の発生を受け、根室振興局は7日、町役場で停電対策セミナーを開いた。管内の防災関係者ら約30人が、停電時の危機対策を学んだ。

危機管理アドバイザーで、札幌のコンサルティング会社「あかりみらい」の越智文雄社長(61)が「今市町村がやらねばならない停電対策」と題して講演。北電OBの越智社長は、ブラックアウトにより搾乳牛の乳房炎が多発するといった

セコマが車のバッテリーからレジを稼働する電源を確保し、営業を続けた事例を紹介しながら

農業などの面で大きな被害があったことを指摘した。さらに「供給力不足や電源トラブルなどにより、今後も停電は起こりうる」と強調し、コンビニ道内最大手セコマが車のバッテリーからレジを稼働する電源を確保し、営業を続けた事例を紹介しながら



最後にハイブリッド車を使い、投光器やストップ、テレビなどを付けるデモンストレーションを行った。

(古谷晋世)

ハイブリッド車を非常用電源に活用するデモンストレーションを行う越智文雄社長

計画停電への備え学ぶ

中標津 19機関参加しセミナー

【中標津】北海道電力で危機管理課長などを務め、釧路支店での勤務歴があるエネルギーコンサルタント「あかりみらい」（札幌）の越智文雄社長（61）を招いた停電対策セミナーが7日、町役場で開かれた。根室振興局の主催。昨年9月の胆振東部地震で道内全域が停電したブラックアウトを教訓に、厳冬期の長時間停電時に公的機関が果たす役割を再確認する目的で、釧根では初めて実施した。根室管内の自治体や警察、消防、海保など19機関から26人が参加し備えを学んだ。

越智氏は、計画停電にならないための対策として2割以上の省エネ効果がある発行ダイオード（LED）照明への転換や、非常時の態勢確認にはチェックリストで情報を簡潔に共有すること、平時から訓練で減災意識を持つことなどを提言した。

ハイブリッドカーを非常用電源に活用する実践では



平時の訓練やチェックリストの活用を呼び掛ける越智氏

1台で最大1・5割の電力を賄えるとしてストロボや液晶テレビ、ポットなど最低限の装備が使用できることを紹介。ブレーカー付きのコードリールやバッテリー着脱式の防水LED投光器なども勧めた。

また、北電OBの立場から、ブラックアウトを招いた要因や復旧までの不備も指摘し「大きな送電網を持たない北海道では、今後もブラックアウトは起こり得る」と警鐘を鳴らした。

（五味亜希子）